

ふりがな	とくべつしせきかそりかいづか だいじゅうよじちようさほうこくしよ								
書名	特別史跡加曾利貝塚 第14次調査報告書								
編著者名	松田光太郎・西野雅人・菅谷通保・森本 剛・長原 亘・千葉南菜子・杉本 亘								
編集機関	千葉市埋蔵文化財調査センター								
所在地	〒260-0814 千葉市中央区南生実町1210号 TEL.043-266-5433								
発行年月日	2024年3月29日								
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査 年次	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	(世界測地系)					
加曾利貝塚	千葉市若葉区 桜木2丁目20番	12104	3-104	35°37'24"	140°9'52"	第14次	2017年9月26日～12月22日 2018年7月30日～12月5日 2019年6月5日～12月20日	700㎡	保存目的調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
加曾利貝塚	貝塚・ 集落跡	縄文時代	中期～晩期－堤状貝層・遺構内貝層・住居跡・溝状遺構・土坑・柱穴・埋葬遺構		縄文土器(中期～晩期)、土製品(土偶・土版・耳飾・ミニチュア土器・有孔土製円板・土器片鏟・土器片円板・焼成粘土塊)、石器・石製品(石鏟・打製石斧・磨製石斧・磨石類・石皿・台石類・砥石・軽石製品・玉類・石棒・石剣)、骨角歯牙製品(頭形角製品・骨角鏟・ヤス状刺突具・加工角・加工歯牙)・貝製品(貝刃・貝輪)、埋葬人骨、動植物遺体		加曾利南貝塚は縄文時代後期の貝塚・集落跡として知られていたが、今回の調査により、晩期も拠点的な集落跡であったことが明らかになった。また長軸14.3mの縄文時代晩期の住居跡も検出された。		
要約	千葉県千葉市に所在する特別史跡加曾利貝塚の第14次調査の発掘調査報告書である。加曾利貝塚は直径約140mの環状に広がる縄文時代中期を中心とした北貝塚と、長径約190mの馬蹄形をなす縄文時代後期の南貝塚からなる日本最大級の貝塚で、1962(昭和37)年の保存運動に伴う調査以降、第13次にわたる発掘調査が行われてきた。しかし初期の発掘を中心に過去の調査区域の厳密な位置はわかっておらず、正確な位置を把握する必要がある。また南貝塚において実施された第2次調査では報告書に掲載されていない未報告遺構が存在する可能性があり、確認する必要がある。さらに南貝塚は後期の貝塚として知られているが、晩期の遺物も出土しており、貝塚の終末期の様相を把握する必要がある。そこで南貝塚を対象に第14次調査を実施した。調査の結果、第2次調査の2本の調査区を確認し、未報告遺構が遺構であることを確認した。また縄文時代晩期の住居跡を3軒確認し、本遺跡は縄文時代晩期にかけても拠点的集落であったことを明らかにした。								

